



あなたも
チャレンジ

家庭菜園



園芸研究家
成松次郎

カブのトンネル栽培 適切な温度管理を心掛ける

図1 畑の準備



図2 マルチ張り

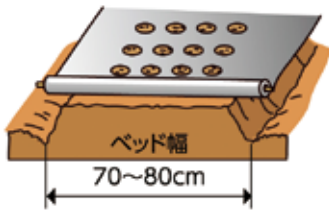


図3 種まき

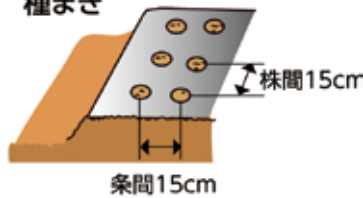


図4 トンネルべた掛け

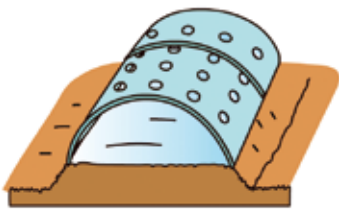


図5 収穫



カブは、暑さと乾燥に弱いですが、寒さには強いという特徴があります。温暖地の露地栽培は3、4月まきになりますが、トンネル栽培では2月まきができます。生育促進と、とう立ち防止にマルチ、べた掛け、トンネル資材での保温が必要です。

【品種】
低温肥大の良い「白鷹」(武蔵野種苗園)、「ゆきわらし」(カネコ種苗)、「ゆきわらし」(カネコ種苗)、「タキイ種苗」などがあります。

【畑の準備】
種まき2週間前に1平方m当たり苦土石灰100gを全面にまき、深く耕しておきます。1週間前

に化成肥料(NPK各成分約10%)100gと堆肥1~2kgをまいてよく混和しておきます(図1)。

【畝立て】
幅70~80cm、高さ5~10cmのベッド(栽培床)を作り、平らにならしめます。畑が乾燥しているときは、灌水して土壌水分が適度な状態にし、15cm間隔の穴開きシートでマルチをします(図2)。

【種まき】
種は1穴当たり4、5粒をまき、1cmほど土を掛けます(図3)。その後は、発芽促進と幼苗の保温のために、べた掛けとトンネルをします(図4)。

【間引き】
発芽し、双葉がそろった時点で、密になっている部分を間引きます。その後も、生育の劣る株を間引き、最終的に1株立ちにします。

【トンネルの被覆と換気】
冷涼地や温暖地の2、3月はまだ夜温は低いが、昼間のトンネル内は高くなるため、本葉1、2枚の頃から換気を開始します。フィルムの裾を開閉する方法、フィルムに穴を開ける方法や穴開きフィルムを使う方法があります。そして、生育後半にトンネル内の茎葉が繁茂する頃、遅くともヤエザクラの開花の頃にトンネルを除きます。

【収穫】
直径5、6cmから収穫(小カブ)を始め、10~12cm(中カブ)まで収穫期間があります(図5)。

日本の「農」と「食」を学ぶ

●日本農業検定事務局

ネギの基本的特性

問題

ネギの基本的特性についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- 栽培に適した土は、耕土が深く、通気性の良い土壌・砂壤土である。
- 生育の限界温度は下が15度、上が25度と耐寒性、耐暑性共に低い野菜である。
- 光の弱い冬季の栽培や、密植栽培が可能な野菜である。
- 生育に合わせて、葉鞘部と葉身部の境目で何回かに分けて土寄せをすると、葉鞘部が軟白化した根深ネギができる。

解答

正解は②です。

解説…ネギの生育限界温度は下が4度、上が33度と耐暑性、耐寒性共に高い野菜です。ネギの発芽適温は15~25度、生育適温は20度前後です。光の弱い冬季の栽培や密植栽培も可能で、乾燥には強いものの、湿度が高いと酸素不足による湿害を受けます。



図：ネギの各部の名称

『新版 日本の農と食を学ぶ 中級編』(102~103ページ)より

